増補地錦抄　十三

182
10
158

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

廣益地錦抄

十三

巻之十三

薬草のうち
又十七種
花葉ノ圖
色付ケ

182
20
158

東京圖書館

和書門	類	一八三〇	函	六	架	五	號	ニミル	二〇冊

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』 請求記号 182-158

ガラス使用

廣益地錦抄卷之六　　某草五十七種

閑源

脊令草　白蓋
我木　陸英
澤蕭　蔥蘇子
空穗草　白茂
木賊　萹蓄
麻黃

續隨子　大戟
鼠麴草　桔梗
二白草　苦參
茅胡　威靈仙
青蒿　蒺藜
馬蓼　曼陀羅花

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』 請求記号 182-158
ガラス使用

忽冬　仙人掌
葛根　鰹菜
ねのんど　芭蕉
山慈子　今燈菜
石蒜　水仙
五味子　徐長卿
薜荔　綿棗兒
海根　白及
天門冬
朗菓
阿蘭陀菊
二七
玫瑰
女青

狗脊　岩根
葛根　根木乃お
良姜　葉八柳乃葉の
我木　葉八楊乃葉の
續隨子　葉八柳乃葉の

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

初秋の比赤くなるを
名にのんで食ず節
ありて竹のごとく実の旧
穀なくて綿のおくを
初めありな草綿同じ
所にふるり黍陸英の
おくなるを一二丈実
殻相空心多しよ
よくそだてられども陸英葡
蘿よく元一種也誤
二種とし黍訳葡蘿花
と陸英と訓スト穢須
呵縁ぶのごとく大ふ飛味

乾麻子　黍大きさ切麦のごとく
八つ稜ありと云実
熟して後ふるり黍稗と種
実のごとく七月末の比
立ツ作りのごとく節高
てうとに実あり穀
よ剰まて四ふ五穂形
みあり是くまごと枝

於个　陸英ハ茎ともに
宿根ふり春生ス又ハ秋
葡蘿ハ本まて年ごと大
本ふり枝をさぐれば茎
枝ふくまてその時
苦參　春宿根ふりも
ふんしものごとく
茎葉の茶ごとく
ふつ実のごとうす黄色小
花のごとくふつ小莢
実もさくけのごと
如一所ふ実の重り
付ふ実も枝と甚だし

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

宮穂草　田地に多く生ず　葉かそけく小さく冬も枯れず　花穂ありて細かなる花ひらく　俗俚　貧女草

白茂　草もとより花ひらく　葉小にして花紫なり　俗俚　白蒿

茅胡　云宿根より生ず　くさへ出る事遅く　葉に切れあり　根ふとりて　ひる人のかてとす　葉もかんひ乃　あしくあえ方へ

徐長卿　葉もかんひ乃　ごとく農人田を　植うるまを止むと云　俗俚　貧女草

菌蕈　葉かそけく紙乃　ごとく小にして　うすきもの　宿根より生ず　田中ふ　かくあり

葛蒿　葉沼そく切れ　ありて日ふかく細立つ　用　河豚の白身乃　細立に用　ふるとけい光りさく　その立へ花を賊也

蒙蕘　葉おりそへ出る　より料理ふ　葉おりそへ出る

未賊　葉花ふかく　より冬あり　切りて日ふかく細立つ用　河豚の白身乃　細立に用　ふるとけい光りさく　その立へ花を賊也

対して付ける　あり葉乃ごとく小花　小花と多くあつまりて　花乃色黒く葉又宿　して弁等葉ごと宿根　よりをス又の名布　羅よりいふ

麻黄（まおう）　まおう末城（トンカ）に仙くらのうえに一なかふたくさ生ず海を渡（わた）り北（きた）もろこしてくさの西にうえてくさびえうてさえ冬（ふゆ）もかれずあり高さ二尺（しゃく）ばかりて序（じょ）時（じ）をたがえず植（うえ）て枯（かる）る　唐黄（とうおう）八地（ち）、葵末（きまつ）蘇（そ）八天（てん）へのびちるなり

曼陀羅花（まんだらげ）　まんだらげとゆうくさ仏（ほとけ）の茄子（なすび）の葉（は）のごとくにて

料理（りょうり）よく出来（しゅったい）して食（しょく）すべし一（ひと）とせ二（ふた）たび植（うえ）て秋（あき）まで有（あり）

唐人笛（とうじんてき）　とうのごとくにて葉（は）のさきとがりたるものなり

至葉未（しようようみ）　至葉（しようよう）のごとくにて大（おおき）く葉（は）乃（の）

白曼陀羅花（しろまんだらげ）　白花（しろはな）の曼陀羅（まんだら）なり

料理（りょうり）よく出来（しゅったい）して食（しょく）すべし一（ひと）とせ二（ふた）たび植（うえ）て秋（あき）まで有（あり）

唐人笛（とうじんてき）　とうのごとくにて葉（は）のさきとがりたるものなり

至葉未（しようようみ）　至葉（しようよう）のごとくにて大（おおき）く葉（は）乃（の）

白曼陀羅花（しろまんだらげ）　白花（しろはな）の曼陀羅（まんだら）なり

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

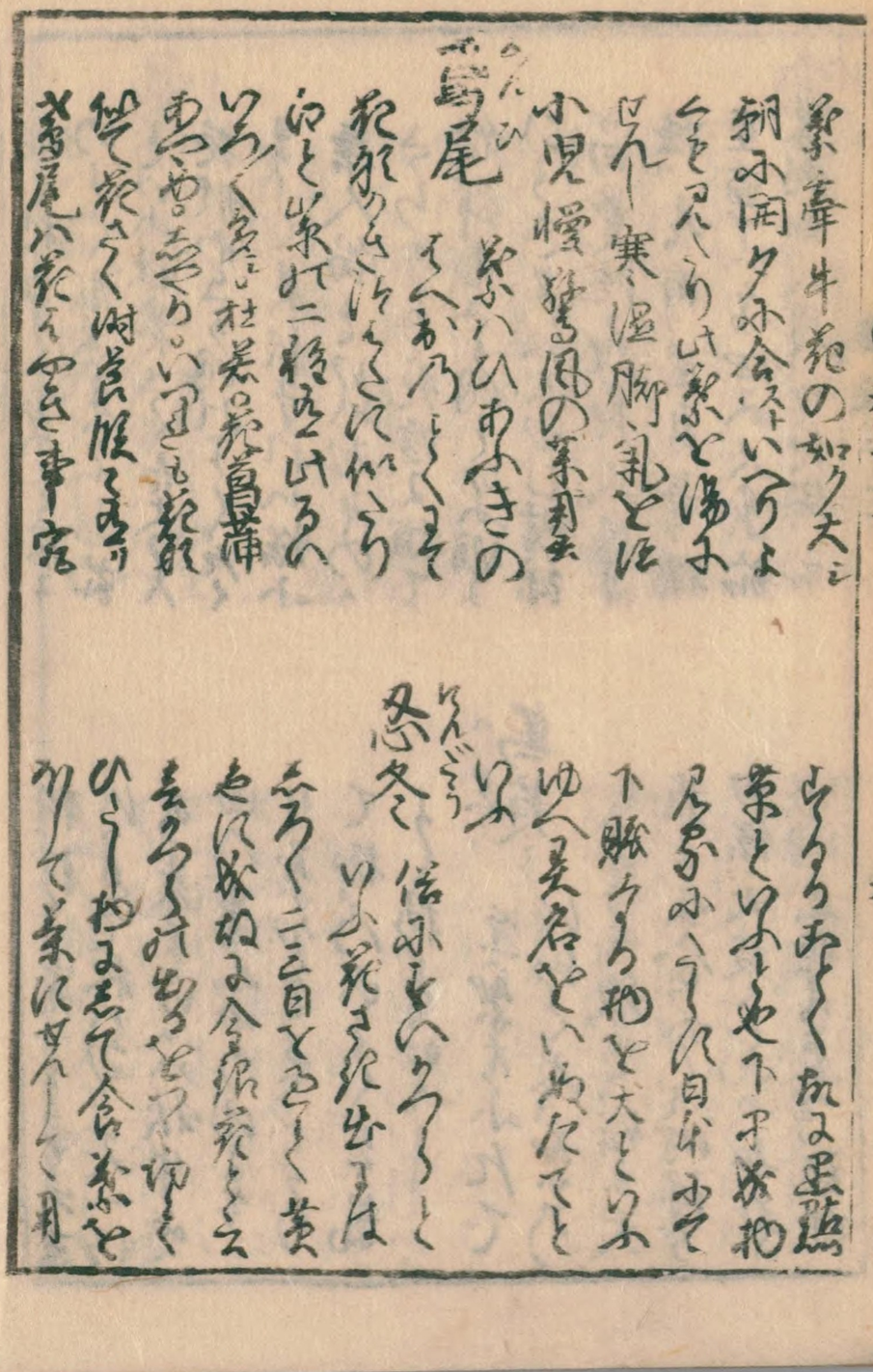
麻黄（まおう）　まくら木城（トノガ）に
仙くらいさんと
一名ホクチ生ス海辺砂
地（ヂ）多クシテ
亜たくさんびろうて生ス
冬ことごとくかれ多クの
て庁時（ヂ）をとりこゝに
植て栽（ウ）る　麻黄ハ
麦木賊（とくさ）ノ天へのびた
るもの

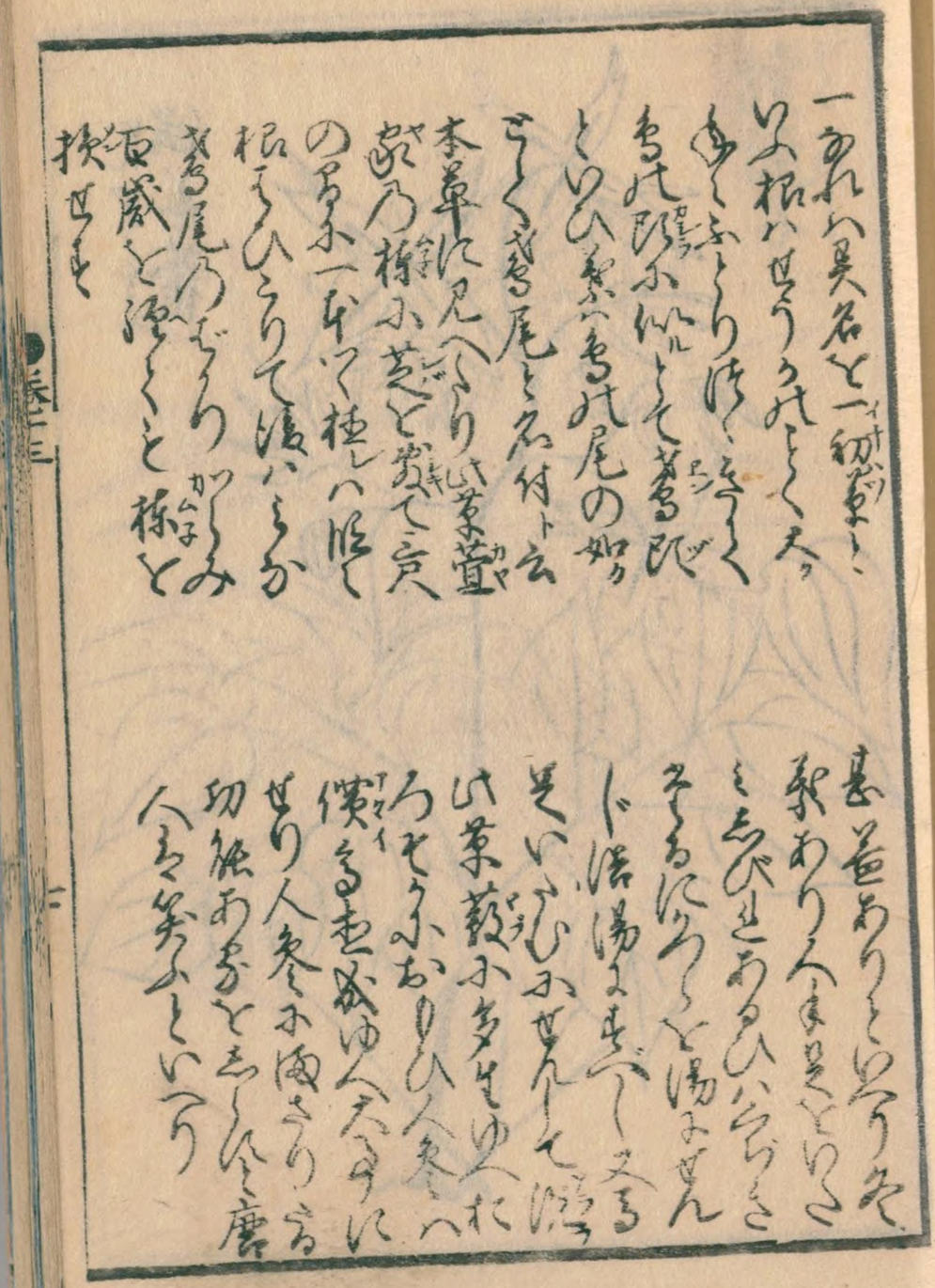
曼陀羅花（まんだらげ）　まきものと
いゆるくさへ
ないお茄子（なすび）の苗のごとくにて

うらすいろくちかけ
まるい葉あり面（おもて）ニ
紫おおくてあつくちり
めんのごとくにこまかなる
とげあり茎ハ一丈ニ
も余ル秋ニ花ヲ開ク

参（さん）　たでのごとくひいろく
ニ緑暴（ばく）ガ曰七月ニ
仏景ヲ八食ス物ニ精
とゐふ今料理ニもちふ
和ニおゐてもひろく九ニ
ゑんどうおよびゑんどう
ゑの如ク

附子（ぶし）　栽（うゑ）ル事ハ
ひるがほの根ノ如ク
ニ葉（ば）ニ似ク大ニ
して葉ノ後ニ
おりて茎ノ
葉ニ
ニ食ス今久留米
田倉ニ大葉ニ
中間ニ黒点ノ
のごとくあるゐふ
もの
秋ニ
田ノ
花ハ
まく
花ハ
唐人
ちゝ
ひら
鮮
ひら
ニ
ニ
ニ





国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

若冬

良姜

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

曼陀羅花（マンダラケ）

宝穂草（うかがさう）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

陸英 むかごあい

徐長卿 おのちよう

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

菊藿

書架

山慈姑

花六月咲
葉初春出
四月枯

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

きんとうさう
金燈草

花ハ六月ニ咲　葉ハ初春ヨリ出テ
冬ニ枯

せきさん
石蒜

花ハ八月ニ開ク　葉ハ九月ヨリ出テ冬中ミドリ四月枯

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

けいてんそう 景天草

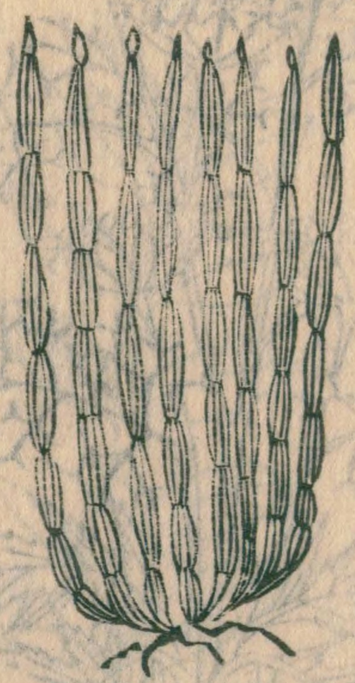
又ごめ嵯子

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

麻黄

木賊



国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

おとぎりそう

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

威灵仙 いぶき

八丈草

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

地楡

海根

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

ざくろ

ふぢ藤葛

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

仙人菜

狼牙

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

仙人掌（せんにんしょう） 夏菊（なつぎく）ともくれなゐの花を冬ごとにひらく白花もひらくさまざまあり人をそこなふ毒ありかたくなる葉をもぎとりてかこひおけばよく根をだしふえやすし

天門冬（てんもんとう） 三宿松（さんしゅくまつ）ともいふ夏菜（なつな）ともいふ葉のごとくにて葉ふかくいとこまかにしてやはらかなるくきありて花白くちひさくしてかたまりてひらく実は丸くして赤くなる

萬年青（まんねんせい） 夏菜（なつな）ともいふ葉山ゐのいをのごとくにて葉ふかくあつくうつくしくして実まつかなるをよしとす

葛根（くずね） 葉は大豆のごとくにして大きくつづら藤のごとくのびる花はむらさき色ありて花のかたちは蝶のごとし葉ともにして葉粉（はこ）となして餅（もち）とし粉（こ）となして餅とするなり

藤天蓼（ふじたでかづら） 木の蔓（つる）のごとくつづらのごとくにして葉は茅（ち）のごとくにして秋の初めの比花さく花は梅花のごとくにして実は八月ごろ熟（じゅく）するなり

鹹草（かんそう） 葉は大豆の葉のごとくにしてやはらかなるものなり

をべし葉を摘とのぞ
食称こゝろとりそう
一茶と摘よわらゆまで
ゐにもりおうて食う
まと拙くまりと云べ
しくかこざまでゞ称こ
わりてくひさりて
まとして拈

胡荽 こえんさい 葉こゆりいゆま
うにこうの栞
のごとく茎うとをもの
花葉ふゝものさしくこ茎ま
立ちくかりまこ空葉

物把して食あるひハ
毒おゝよ拙くかゞしまにハ
いたらとおうこうの痲
とのそ死せどといふ
痘瘡の条まで葉と
称よ拙くまりて食う
くりといの八丈佐よ
痘瘡のこゝろの一切ま
山茱萸のあるゆへんし
くもいうか茱萸同ご
枝葉赤ふ女岡ゐり
醜まとけくる気香
して味玉ハこもの

ゐよゆびさて物ようふ
巽角の汁よゝそゆまで
めきまをとりくう
唐人ハ鶏ごこいのこ乃物
ほまうゐず用ゆとふ
ハまうゐず用ゆとふ
ハ実ハ疫病ふうめる
ゐりてうく發ハ実と
ゐりてうく發ハ実と
酒よせんし病気のう益
にうさかくまべ獺気と
さふふゐりこうろくぬ
獺気ふゐまでとをおく
ふどゐと切て毒出の
こまありにゐりてう
胜毒これいうもよこ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

しそうつという又俗ニ
なきくいのてんまたは面
皰などあるときはいつも
いまつとりてぬるべし
又大熱風疾ありもふ
ぬるべしそのくいうつと
やめていねあるひは葷
菜乃類断て食ふまじ
なをしがたし瘡瘍のあるも
なをしがたし
いのんぢ 葉ニ毒ありて
世ニ小附痔疾などあるもの
いまつとりてはよからず是ぞ
疫癘などのそくしやうに
なりさうなりそれときりに
痒ものいでくるやうになれば
酒よりはじめ瘡瘍のあるも
なをしがたし
阿蘭陀菜 らんざうさい 葉ニ毒ありて
ほそくかりて黒ずみ
ゆるがぬくさありて乃ち
おちさうなれば葉乃おなじ
あるかよりきたようなもの
而ク深山ニかんかつ生ず葉
葉松山茶ニ似て厚ふ
くろく冬ニいたりて紫
色ニなりて枝ニのこる
芭蕉 ばせを 生ス葉中ニ大
なるものありて葉ニ
毒ありて食ふべからず
葉ニ毒ありて枯ざるものを
葉奥あるいは乾ものよう
枯てかの動脈を止ム

景天草（けいてんさう）　葉ぐんひの如
あつく葉の色
うすく白く緑葉よりも細く
しまりて葉と細き
ばかりくれ花一ツ宛もちて
夏中白くに紅ありて
うるうるとさく小菊より遅
と切て糸かけ
より通ずして葉と莖
ともに分て無と云
外葉に今痰無止
葉をばんじやうこ云

山慈姑（さんしこ）　初春乃比葉
と云ふその仙の
葉よりおほく初夏のころ
葉かれて六月ころ
おふ一丈に四五つもんく
丹の如ものと紅
花をそのうへに
ひやうく毛のあけろ
とくびれを初夏に
出て一旦小一寸ばかりの
冬までさくけり久
敷もち稀に花出故
優曇華（うどんげ）花とも
云ふ

三七　葉名天門冬又ハ
けぐんさうと云、
あざとうくさ　本草
の若小ハ
ものと云ふ
血と止ムなり草細同じ葉
葉九三石四故に名山藻と葉
ハ不知本名山藻と
ハ今痰如漆物
粘ばり強きこと
地楡（ぢゆ）　漢名地楡
苦乃ひより
秋穂と云ふ草花ハ

附録の曰所くみの冬
月小葉と生二月に枯
一至ると幹乃如ク花ハ
白みより紅ハ諸毒
と解万病解毒九に
山椒と末一丈入るとなり
網同ありて

令燈菜（れいとうさい）　葉大きくひろく毛出
夏枯ル花ハ六月ころさく
花乃ちとも白くさゝり
いろ〳〵色附ル曰ク

えんもうといふ根ハ
葉柄乃地枝ゝ秋のま
袖と切り白ぐげに栴て
立花乃下葉にゝ
玫瑰花（まくわ）　前（ゼン）ゝ
茎ゝ三尺ひろく
紅葉をひら〳〵大つゝん
かゝうんのごく隙まべ
し一寸丸くゝ紫つんご
のごくうこん久ゝそほ
そめて来紅色又花
もり両さりて俗ゝり
花よ仁紅みうとゝ白
花のるひそり葉花
仁唐さんし〳〵こんりよ
俗名ゝ
石蒜（しせさん）　先ゝさんし〳〵この
ばくくゝそれどゝを
花ハ八月中の彼ひろく
色栴葉紅花茎ゝ
多くゝ俗ゝ曼珠沙華（ゼンケ）
しいふ根ハ水せんのよく
ゝゝ食ゝそほり山根ゝ
ゝまろにてそ粉よお
しまぜ屏風ふさ食の

附録ゝ曰ゝ二ゝ又栝
多くゝ刺あり葉ゝせうび
ふ似てあり仁縁（ふち）ゝあり
同花ゝ花大ゝふんハ椀
乃ごくゝ小ふんハ皿の如
もらんごもばくゝとう
らうざ　木ゝ葉ゝも花
かくゝ花乃色白ゝ白牡丹
のごくゝ花乃ゝ両れゝ
実ゝもゝ実の又拇（ぼ）指
のおごくゝらうざゝ多
いとれとりわぶらゝ
下（シタ）ゝ刺ゝ又ハいつまそ
ゝ出ゝとゝもゝまうのとそ
多くゝ葉ゝ細ゝ又周ゝ
水仙（すいせん）　今多くゝ花ふ洗
ゝりその根ゝとせり
唐ゝ土ゝ二ふのふゝ通
乃かりこの花ゝとゝへり
附録ゝ白金盞（きんさん）銀盞（ぎんさん）
ゝ花のごくゝりとい
へり花ひとへのるんさう
ゝ又実ゝてう〳〵今花
いまぐれてうう〳〵ず
ゝ仙乃根ゝとこ俗ゝり

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

ふぢりの科ふぢりのよりの
いもの芋
威靈仙 葉をつゞみ
車ぜんごくに生て莖
にのぼり故に車前ふ
車三七九九蓋草とも
いふ苑にうえひさぐ
実熟して穂のごとし
実月ひとくさぐりめぐり
穂をなして下ざまの尾
といふ草苑より仙ぢり

て粉のごとき也指い
ちて験ずるに付ざる
物也又らう地乃紙よ
うる文字をぬぐひさる
ゝ紙乃根の切りめそ
ぬるに紙よくつく
ものとしるべし
葉形ふきのそ
ぐ栃のごとく

なり草ふき穂咲白色
といふのごとくにして
細夢のごとし実
乃ごとくにして
細緑ぐ別よ数粒ありと
いふ是和乃威灵仙
そよびまたりり
猿牙 所ゝ芝野乃中
に多くはえ宿
根ぢりに葉ありて
実ありぐるりサンキラ
イのごとくにして
中にこの牙細あり冬
葉葉ふきの如く軟
バラ〳〵ぢりの雅そり

花をつけ尾葉乃あ
ごとくふさく白く実乃ひ
らくごとくありはよ宿
根ぢりは因乃芽の
ごとくにして
藪蘭 藺乃ごとくぢり
葉光く様乃葉
のごとくよくして葉
中にこの牙細あり冬
葉葉ふきの如く軟
実ありぐるりサンキラ
イのごとくにして
バラ〳〵ぢりの雅そり

給ふやたらんとふ若
うすゝきたむく薄
乃あをく敷衣の紋
にかり鋸(モミヂ)をかたよりに
もくさ葉若乃えと鋸
りうこんの林ひ
らく

錦蛍草(ほたるぐさ)覚 田野に多く
宿根より生ず
花を葉ある山葵(わさび)地乃
あをく葉と葉乃
ちがひ葉乃あをくして若
さくたりさやすり乃

おとかさうみ若乃
くねをあをくそもりて
畑乃さゝげとおなじ
にウシロウロウとゝ

蘿摩(つぐえびぐさ) 蔓草そりの葉ハ
柏(かしわ)葉にて葉宿根
よりはえ葉乃そもくし
あり〳〵葉對(モチ)て葉よう
すの如く葉乃ねもとより
て実ふさの如く食る毒耳
葉切(きれ)ハ白く汁出ル赤脂
にありて早くいろ〳〵を
出すの白葉空(そら)白の虻(ハエ)

やうろくお焼てりらと
もう餐(モノ)無しねぶ葉と
もよべりらふこ條の枝
乃ハくしくおとさ
ほしくくありひしおとさ
ていうふいうきやの
むとおほへしまくれ
あり乃あるじにそハ
山下の名物(メイブツ)ともいふ葉と
葉もまゝ細ありくて
河のやうよ多(オホ)ふ生(オフ)
まゝにて行来(ゆきゝ)の
もんをと蚤(ノミ)甲(カブト)虻(ハエ)と

182
20
138

燒て悪臭とけむたいようなのでこれもまた二四寸許もさきをぐりてをらまのどくれの来(キタ)熟(ジク)しれて二月ころ中より殖(フエ)乃ち多く出て害虫の掃(ハラ)ふがごとくしてやうやう也ありなを菁(ちよせい)菜(さい)蔓菁菜ともあり茎葉ともに食ふ也

いつけなどとりあつかふこと云(イフ)にあらず乃ち取(トリ)て煮乃(ニノ)ち細(コマ)かに刻(キザ)み仰(アヲ)ぐく又鮓(スシ)となすも乃ち大事(ダイジ)の業(ワザ)なり入(イル)と云(イヘ)ども食(クヒ)して害(ガイ)あることなし

とこそいふさうもいはばいふてよかるべし

いさうの人乃ちこの菜をもてそだてしとかくるやうや田舎人のいひてよき料理(レウリ)なりまもなくわすれてなほ食(クヒ)ふべきものとこそ覚(オボ)ゆ

大きさたけのおよそ尺ばかりうすく白く莞井(ヒルカヘ)菜(ナ)葉(ハ)とおなじやうにて細(コマ)かにきざみ煮(ニ)ても煠(ユデ)ても食(クヒ)ふべし

海根(うみのこんぶ) 田野小さくまえ葉も薊(アザミ)乃葉(ノハ)に似(ニ)大きく中に巻(マキ)て巻(マキ)ほどきて食(クヒ)ふ

花乃ちおなじく二尺ばかり白(シロ)き穂(ホ)のごとく風(カゼ)ふきごとにちりて菜(ナ)花(ハナ)のごとくなるさまなどいとめでたし

白頭翁(くさとうきび) 芝野の中に多く生(オヒ)出(イデ)て葉(ハ)切(キレ)わりくさとうきびに似(ニ)たりおなじやうにて煮(ニ)ても煠(ユデ)てもよきやうふくまた二月ころ中の花さくちご花(ハナ)ともに落(オチ)乃ち綿(ワタ)のごとくなるさまなどいとめでたし

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

廣益地錦抄　十四

巻之十四

182
20
168

藥草類
三十四種
花形圖并
色付

東京圖書館

和書門
類　一三〇
函　五
架　ニミ九
號　二〇
冊

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　　ガラス使用

廣益地錦抄卷之六

用錄

王不留行
防風 二種
阿薇荷
紫草
白苑
英花地丁
胡盧巴
莉芥
百脈根
牛扁
海魂草
鬼臼草
和毋
玄參
毛茛
扁特
蔊菜
東風菜
川芎
薄荷
羅勒
紫苑
及已
鼈腸

菜草三十二種

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

蓮翹單蓮　繁夢　石龍芮　毛蓮菜
龍葵　龍珠　薏苡仁　野菊子
藜蘆

王不留行　葉如瓜瓣而小花如碗口大色紅
開處處田野有之　二月下種苗高尺餘莖
葉俱青綠而光潤葉似初生小桑葉而長
開花如碗口大色紅而帶白蕊如蜂鬚
三四月結實如燈籠殼內子如蕎麥粒
大而圓色黑味甘平無毒主治金瘡止血
逐惡血瘀血通經脈下乳汁利小便除
風痹內寒久服輕身耐老益氣力令人
不饑

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

ありハ九月ふまくをも
乃うら苗三くりてハ
月くるかさねの月拾る
糸母　宿根ハるり玉生
ハ冬かるそかぐく葉
ハ又あざやうふまくく
ふくあるゆゑ花形物の
ようにかぐくのびた
花乃色うと葉ハ
ほそくさく又六七月の
ころつぼみ出し九
月まく花さくる

中旬うら面へ
宿根ハるり玉ハ
葉切ハこと多ク
ハ月草　宿根ハるり玉ハ
草ようらのび枝乃ほそき
秋白花さく時珍の珊
葉ハりとりかぶ
ようく胡荽ようふ葉ハ
ほそくさき葉ふみてそ
ふくしき葉乃色ハ
ありてつ蕾うち色ろふ
そくくほそき糸ぢ風
そよ花ハかるまく

めうじん　景ぶ形簡
補ハり　ぜんのやうな
角場ぶ葉ハ乃ぐく
とふをハ形ありへを
ハ草人乃ふみふく
とそらふまくふと
かづまびハ切ぐりく種
ものそりをふうへ
形ふう面ていさぐな
し

葉形ハきざみありふ
さしく種てかぐもの
ハ形ハ形葉ハ形をあり
ハ宿根ふ
葉ハ葉ハ出ふ葉ハ
防風ハ
玉ハ切ふ葉ハ
ふうとハひ葉ふの切ハ
ふりくしてハん
葉ハふくする
又葉ハ防風ハ
葉乃切ハあり
ふ

莉芥　葉ふそもク切り
まつ乃ふに

おひしを葉なみ
ふり苑をみるこのみ
し秋実となりそぶ丸
ものく二月前べし一ト
葉ちて根ハ冬枯る

玄参　宿根ふり玄生
葉互ひかたふり
ねハ粗乃ごとくおく
ふかひもくさ也七八
月ものく莖となり
ふたゝびふりあとべ

漢防風といふやうり
いづれと究ム来ル
までさくらし好を
おかく付ふり多く
二月前花傘ハ神く
かゝるあり

薄荷　宿根ふり玄生
又さしもと前て
ふく多出ふくこが
ね葉ハ薑香ふり
仰く面対ニ付葉乃
まうりみあふくさゝ

又一株ニ数状同しくて
花乃久うと美也
ふり莖と玄ふ

百脉根　葉ハ萩乃ふ
ら枝ふくらハく
ふもぐく付えぐ多ぜな
しく苑花さゝげの花
のごとくうす久前
く付四又月ハさく整
葉もありしくなる
さゝへど実ハさゝげのよ
ふにて一寸ゟ三寸

ふり葉のごとくうり
枝多くある葉ハ
花さくうすむく小
細乃ふふありて葉ハ
莖よ香ありつ
まゝ切ゟで香鼻とさ
ハ多ハ又ハ落花葉
乃もおぐくしてふりて
猶乃ごとく玄ふ
乱ふりふ宿根ふり多
生ルが年ゟ年ゟ
ふ去ゆへよや香気

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

竹を高く葺き、葭の方道
まくるやうに小き折りを
設け、茅王子名所の
即の中又は道のくま
小き折りを花さうに作り
人形のやうに
作りてとらせむ又
屋かざりの事
生け又稗と荷てもよく
又きく菊花の名高帽子
菜大こさこまごまと
羅勒 玄稗ともまく尺
にさゝやかまき

菜豆菜取枝ありを
ちうちうしれ菜小仏ありを
又月ちかく花形種
乃おくく一年菜まき
冬も枯る二月稗紙
荷二葉小さく入れるやう
葉に巻り折よありて
葉乃ちりうりべ草
花小名と葉番とを
葉菜とも云実ちか
細小して植て小稗也
眼同小物の入りまか

花れちくちりこ四月さく
花垂ようをくまぎめ
あり菜花の名今風
花とのみなせんう
毛蔓ハ花ひとつより
き八を今風花とも云

三 菜草 宿根より春生
えだく梁乃稗
小筋ある鉄へて
らうを花白く
てかまんの頁かさく

以実を入れ同乃ごとをおしつぶしてより合せ其葉のうら手のりと云物にぬり同帰(かえ)るもの又小菜をそめんらく紙ようへて濃を重(かさ)ね庭(にわ)の内(うち)へ植(うえ)てあり茎香せり

牛扁(ごしきなん)　宿根(しゅくこん)より生(しょう)ず　道(みち)ばたに多(おお)くあり根(ね)ほそく多(おお)くまとまりあり花(はな)は白(しろ)く梅花(ばいか)乃(の)ごとくにて五(ご)弁(べん)乃(の)ごとく花(はな)も梅(うめ)花(はな)のごとくにて小(ちい)さし

扁特(へんとく)　宿根(しゅくこん)より生(しょう)ず　牛扁(ごしきなん)の花(はな)茎(くき)葉(は)ともに似(に)て葉(は)の切目(きれめ)多(おお)くまとまりあり花(はな)は梅花(ばいか)乃(の)ごとくにて茎(くき)ともに梅(うめ)が香(か)

梅乃花のごとく小(ちい)さし

蕙苑(けいえん)　宿根(しゅくこん)より生(しょう)ず　葉(は)大(おお)きく枇杷(びわ)葉(は)のごとくみどり色(いろ)にて茎(くき)葉(は)ともに毛(け)あり花(はな)は白(しろ)く六七月(ろくしちがつ)ひらく

白苑(はくえん)　宿根(しゅくこん)より春(はる)生(しょう)ず　葉(は)もとよりうすくみどりにて細(こま)き毛(け)あり茎(くき)は高(たか)さ一尺(いっしゃく)ばかりにて又(また)ひくきもあり

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

おもだかの花塩水柱
ぜんそうさう

返魂草 根ほりの条
葉ねぎのごとく切
ほそき葉にふさふさ
草のごとくおひつくもの
やうへなど莖六七尺のび
花をひらく形牡丹の如し
月かさねひらくこと六七
おうさう一名萱草 黄色千葉
ひるさくくわんぞうと
よりさくわんぞう一本

萹蓄 根ほりの条
柳乃ごとく莖ハ九

草釋名に返魂草萱草
同集解小紫菀 白菀
大明ゞ黄白紫菀とひ
くくいへり花黄色なれ
ばなるべし

及已 根ほりの条
草もとより三四すぢ
生ず白花赤のぶく
に似てやゝ小さく
まばらに咲ことし花
ちりてほそき莢あり二つ
莖ハ黒紫ゞ莖ハ

多く叢生俗ニ忘憂草
ともいふ田舎の老婦多く
之を食ふ民俗痢疾を治
ず煮て食ふ味甘滑
汁を煮つくし白の粉と
なり團ごとして黄
食甚妙なり

黄花地丁 苗黄色花ゞ
み苗乃ごとく
六七月ハひらく葉切
ものまばらにあり茎乃ごと
くたをく莖中空ゝ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

らふあるも実ハ葉のうらへさがりて付ク又一枝より数輪同し高ひてるさ二尺余小のび立り二四すの小華さくなりのち二月に至てかれ二月ハ花さく根ハ細辛乃ごとくにして香気あり

鬼臼草 花黄色八月さく葉ハ切レ

東風菜 岩松より高さ一尺ハかの花久くさく葉ハちゞり枝おほく生ク花さく先ハ分レて細毛ありて風かとびちるとちり風かとびちる白毛ごとくにして種ハ八四角ありてなる葉ハ細長く切レ白汁ありて苦し

蒿 岩松より高さ二尺余葉ハ羊歯の葉のごとくにして互ひに対生ス

艾 葉ハ蒿に似て香気あり

蓬 葉ハ艾に似て香気なし

蒲公英 葉ハ蒿に似て小し花ハ黄色

苦菜 葉ハ蒲公英に似て小し花ハ黄色

苦苣 葉ハ蒲公英に似て小し花ハ黄色

苦蕒 葉ハ蒲公英に似て小し花ハ黄色

苦荬 葉ハ蒲公英に似て小し花ハ黄色

苦蘵 葉ハ蒲公英に似て小し花ハ黄色

**苦薏

にわくに対小竹葉の
ろくり我多くなる七
八月花さく白小蓮房の
ように仙くに実ハ蓮房の
かたくして本草かいふ
ごとく救くうるとなる
さた盛うた久しく結ニ
一秋菜よりも早蓮華先
いよ

紫蕚　宿根より茎生
湿地よりこげる毛
薄ろくうらに多くなる

ひくなるゆ二尺ばかり
ま花多く付葉花小
名と沢瀉という今ろ葉
乃附ハ陽うて食ス

蓮翹　蓮房の形葉
ろり葉ま
葉も艶物小仙くして
切ハ極ろ三月小生る七八
月花さく花ハ艶物の
ように小くして黄色ハ
蓮房小仙ろり田乃辺
湿地小多く生る花

葉ハさかうしはちの
さた雑車　希ニ小仙り
六七月ろおさく花茎
さかうしろおく塔
ハ花ぶくらちり花
乃色ろり葉○うす
ろさた○白実の三
稜ま花湿り植く
あひとべしまた花名
うういさうという民俗

石龍芮　宿根ろり茎
生多葉小毛
茎小仙ろり田乃辺小
仙く生ろ処也
四五月小さく花葉と
り食花乃ろち
みくたがめま

毛蓮蓁　宿根ろり茎
生る葉表裏
乃やうゆく地より茎ク

葉ろとり薬ろく食ク
幽毒小飢を救ハ

王不留行（こうふるふう）

胡盧巴（ころ）

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

防風

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

菊苷

玄參

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

薄荷（はっか）

野薄荷（のはっか）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

百脉根 ひゃくみゃくこん

毛茛 もうこん

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』 請求記号 182-158　ガラス使用

羅勒

紫蘇

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

牛扁（ぶへん）

烏扁（うへん）特

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

返魂草（ふんごんさう）

及已（ぐうい）

大ノ圖 高さ二尺余

小ノ圖 高さ四寸許

花の圖 花の時葉なし葉花ともに無し

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

蕪菁 かぶら

黄花地丁 きくなづな

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

鬼針草（きしんそう）

東風菜（とうふうさい）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

鱧腸

蓮翹旱蓮

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

龍葵（ほろしき）

又一種（いぬほろしぐさ）

龍葵

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

毛蓮菜

珍珠

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

青箱子 あおそうし

野蘆 のあし

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

くい草

たぐ

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

石竹（たうちく）

藨蘆（ほろ）

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158　ガラス使用

龍鬚　二月生苗のかたち菊ノ如し
又仙人くらのさ
乃延蔓して白花又出
黄蘂ありて九月
とりて一所ニ八九粒
ならびつく実の又
蔓して根ふかくして
黒し一枝ニ数十出苗ニ
ひとり数枝ありて叢生
へさぐるが
○又一種苗大ニして実

菜葉ハ菊ニ似て厚し
菊ふかくして
ちさき花ありて
ちさき実ありて
薬ニ用ゆ
乃延蔓して白花又出
黄蘂ありて九月
とりて一所ニ八九粒
ならびつく実の又
蔓して根ふかくして
黒し一枝ニ数十出苗ニ
ひとり数枝ありて叢生
へさぐるが
○又一種苗大ニして実

薏苡仁　苗ハ高さ五六尺
ゆふ六七月の頃又六
尺ほどの茎ありて
大ニ枝ありて
とりてすりくだき
粉として食ス

龍珠　二月苗生ニ似て
葉ハ菊ニ似て
乃類草ありて実ハ
初青くして後赤くして

青箱子　二月種ヲ蒔
苗ハ雞ニ似て
ちぢれ多し
のびてこぐりて
五六寸ニして
をりつぶさ乃ちの
きをつくかをびて
くらべ殻ありて実の
まく実小針のごとし
地おろく生ずる
小かをびとりて
枝より小所ニ道乃
如くニ生
龍珠　二月苗生ニ似て
葉ハ菊ニ似て
乃類草ありて実ハ
初青くして後赤くして

青箱子　二月種ヲ蒔
苗ハ雞ニ似て
ちぢれ多し
のびてこぐりて
五六寸ニして

赤く愛らべし一本
おほくさぐりて雄蕊
めづらく俗みひよりも
じやうごといふ
ひよりじやうごも
夏草おほく白黄色
形り実乃ふくらみ大
にふくれるいへいふまで
べし花澁みうへくか
ぐあるもの

籾蓋 岩招より黄色
茶い黒葉白

花おほし花茎ふたつ
下ハうを向くさきそろ
葉細きより実をけ
いとうに同し花さく
ふくらを同時より時珍
ゲ苗葉花実雞肫と
一根之別花絶とおほ
又すゑ鬼尾乃ふくら
こいふよりいかへくら
花澁み抽くおのれと
なり。又一種俗ゑ野
雞肫といふ和田野ふ

葉小細くまれ七日光
葉ふいふ日光ふふた
りくあるふうし花の文
點色ふ通ふく花形
ふ葉粒の丁ふ臥のご
とく穂となりておりく
これさく六七月ひら
く花極りう色ふ
ぐあり和元年
りて花ふふりて
本草に上紅下白と
あり花乃まゝりうと

おりくあり葉をけ
いうに仰くふ異
あり花白くおほ
い俗乃ふてほまだ
ふといふ
花ふれをあり花澁
に色く愛ふへし
七八月これさく花形
をけいとうとかく
りて
本草に上紅下白と
あり花乃まゝりうと

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158
ガラス使用

182
20
158

国立国会図書館　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

182
10
158

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『増補地錦抄』　請求記号 182-158

ガラス使用